

7/23
3-28

安倍晋三元首相の国葬実施の閣議決定に抗議する人たち=22日、首相官邸前



批判無視し「国葬」決定

根拠も議論もなく弔意押し付け

官邸前 市民が緊急抗議

岸田政権が、安倍晋三首相の「国葬」開催を閣議決定した22日、首相官邸前で400人（主催者発表）の市民が緊急抗議した。雨が降るなか、「国葬をやる法的な根拠がない」「国会での議論がない」決められた。これは「国葬の根拠」とばかりの声があがめられた。「私は税金使わないで」「国葬・市葬は税金がかかるが、これがまた国葬、市葬が費やすカードが握られました。

政府による銃撃事件の明確な政治利用ではない強調

法的根拠もない国葬の決定は立憲主義、民主主義の危機だとし、「全国で抗議の声をあげ続けよう」と呼びかけました。

市町がリレーで決めるなどとねじこい。弔意を押しつけられるのが嫌でした。反対の声をあけ続けます。反対の声をあけ続けま

千代田区）を会場として、

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

松野田は「国葬」とした

理由について、「8年8ヵ月

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

を戒諭する場となり、事実

は休むことない方針です。

田文雄首相が葬儀委嘱書を

読みます。↓閣議の画面

その後の首相経験者の「国

葬」は、2006年（吉田成

彦）に次ぎる第3回。安堵元首相

にわたり卓越したリーダー

として「国葬への反対意見

がスムーズに反映され、

正木井禪蔵の志位和夫幹部

は、2010年（小澤一郎）に

緊急して安堵元首相の政治

7/23 3・後

安倍元首相の「国葬」閣議決定

国論一分議論もなし

田村政策委員長が批判

日本共産党中央委員会は22日、国会内で記者会見し、政府が安倍晋三元首相の「国葬」を閣議決定したことへの受け止めを問われ、志位和夫委員長が「安倍元首相礼賛の「国葬」の実施に反対する」との談話を発表（15日）している。この触れられて、「また許されない暴力行為であり、立場の違いを超えて用意を示すことは、礼節をもって行いたい」と述べました。

その上で、なぜ国葬が分かれ、批判の声が起きてくると強調。政治の私物化では疑惑が明がなされず、「アベノミクス」や外交、連邦憲法の安保法制の強化など、さまざまな問題をついた政権たつとして、「こうした党内で決め、閣議決定では、なぜ国葬を行う

日本共産党中央委員会は22日、国会内で記者会見し、政府が安倍晋三元首相の「国葬」を閣議決定したことへの受け止めを問われ、志位和夫委員長が「安倍元首相礼賛の「国葬」の実施に反対する」との談話を発表（15日）している。この触れられて、「また許されない暴力行為であり、立場の違いを超えて用意を示すことは、礼節をもって行いたい」と述べました。

その上で、なぜ国葬が分かれ、批判の声が起きてくると強調。政治の私物化では疑惑が明がなされず、「アベノミクス」や外交、連邦憲法の安保法制の強化など、さまざまな問題をついた政権たつとして、「こうした党内で決め、閣議決定では、なぜ国葬を行う

のか理由が示れない。」と強調しました。内閣を求めるなどなどは、必ずしも裏面であって、あわせて、國葬を行ふことは明白ながだと指摘し、「内心の自由といふ」と述べました。

申意を求めるなどなどは、必ずしも裏面であって、あわせて、國葬を行ふことは明白ながだと指認をいたしません。